

UIFA JAPON NEWSLETTER



No. 126 Dec. 25, 2023

Union Internationale des Femmes Architectes Japon

国際女性建築家会議 日本支部

■主な内容

- ・ ホームページをリニューアルしました！
- ・ 関東大震災から 100 年 — まちが破壊されること
私と戦争と環境計画教育 — 小川信子名誉会長に聞く
私と戦争と建築 — 船津貴子さんに聞く
吉田あこの自然災害体験記
木密地域 100 年の長屋のまちから
— それでも住み続けたい
- ・ 第 11 回首都防災ウィーク展示と防災カフェ報告



2023 年 9 月 10 日墨田区横綱町公園における防災カフェにてお客様と集合写真 (写真: 岩井)

ホームページをリニューアルしました！ Our Website Has Been Renewed!

岸本 裕子

KISHIMOTO Hiroko

2023 年 11 月 20 日に UIFA JAPON ホームページが全面リニューアルした。

今回のリニューアルのポイントは 3 つ。

- (1) PC、スマートフォン、タブレットなどの各デバイスでも、快適に利用できるようにした。
- (2) デザインやページ構成を見直し、イベントなど最新の情報ははじめ様々な活動を網羅して、情報をよりわかりやすく、すばやくたどりつけるよう改善した。
- (3) UIFA JAPON のアーカイブとしても広く活用できるように、ニュースレターや出版物の閲覧、展覧会、見学会、ボランティア活動の支援等の様子を多くの写真と共に掲載している。

また、UIFA 日本大会の様子から最新の「住まいづくりの勘どころ」まで、You Tube 動画も取り入れており、UIFA JAPON の 30 年の記録が詰まった内容となっている。

UIFA JAPON ホームページは、今後もさらに内容の充実を図っていくため、写真や情報のご提供等事務局までご連絡いただきたい。尚、この度の作業にあたり、今銚杏菜さんのご協力に心より感謝する。



UIFA JAPON トップページ
<https://uifa-japon.com/>

The UIFA JAPON website was completely renewed on November 20, 2023.

There are three main points of this renewal.

- (1) The website can be used comfortably on PCs, smartphones, tablets, and other devices.
- (2) The design and page structure were reviewed and improved to make the information easier to understand and quicker to find, covering the latest information on events and various activities.
- (3) The website is also widely used as an archive of UIFA JAPON, with many photos of newsletters, publications, exhibitions, tours, support for volunteer activities, and other activities.

It also incorporates YouTube videos of everything from the UIFA Japan Congress to the latest Housing Planning Tips, and is filled with records of UIFA JAPON's 30 years of activities.

The UIFA JAPON website will be further enhanced in the future. We would like to thank Ms. Anna Imahoko for her cooperation in this project.



PC 表示の画面



スマートフォン表示の画面

オンライン講演会のお知らせ

2024 年 1 月 24 日 (水) 19:00 ~

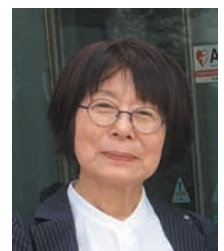
テーマ：すべての人にどこでも快適なトイレを創る

講師：小林 純子氏 (設計事務所 Gondra 所長)

講師プロフィール：

延岡市生まれ、2020 年より (一社) 日本トイレ協会会長、これまでに 250 を超える公共トイレを設計、著書に「トイレが変わる」「変わる学校のトイレ」等多数
仕事上のテーマは「既存概念にとらわれない、これからの公衆トイレのあり方の探究と具現化」

申し込みは上の QR コードによりホームページから



今年度(2023年度)は、「関東大震災から100年」を継続的なテーマにしてきた。地震でなくても、まちが、生活が破壊され、その中で自らの生き方に影響を受け、あるいはそれを受けて何らかの行動を起こすことについて焦点をあててみたらどうか。そのため会員2人にインタビュー、2人に寄稿を依頼し、幅広い内容となっているので、そこから色々なことを考えていただけることを期待している。

This year (2023), we have continued the theme of "100 years since the Great Kanto Earthquake" in our Newsletter. Why not focus on the destruction of towns and lifestyles, even if not caused by earthquakes, that affected our own way of life or caused us to take some action in response to such destruction? The content is therefore broad, and we hope that you will think about various things from it.

私と戦争と環境計画教育 — 小川信子名誉会長に聞く

宮本 伸子

Me, the War and Environmental Planning Education — Interview with Dr. Nobuko Ogawa MIYAMOTO Nobuko

2023年10月20日、小川邸において、井出、薄井、渡邊、宮本がインタビュー

戦争で東京のまちが破壊された時

私は跡見女学校の生徒で、学徒動員で厩橋そばのライオン歯磨工場で働いていた。軍需工場でないと不服の女学生に、跡見桃子校長が「兵隊さんの健康管理に日常の歯磨きが大切です。戦争のために大事な仕事です。」と諭されて納得した。

1945年2月25日の下町への大空襲の時、工場は空襲に遭い、帰宅することになった。北浦和に住んでいた(日本橋から疎開)ので、同じ方向に帰る友人と共に厩橋経由で歩き出した。その途中、厩橋の橋上から、隅田川に人が浮いている惨状を目撃し、目を背けながら通った。東大前の地域は火の手が上がっていたが、東大自体は燃えていなかった。

赤羽で日が暮れ、赤羽に住んでいる友人のところに泊めてもらった。次の日、川口に帰る友人とともに荒川の鉄橋を徒歩で渡り、大宮—川口間の折り返し運転の電車に乗り、北浦和に帰った。この間、東京に向かった父親とは行き違いになった。その後の東京大空襲などは、浦和から東京が焼けて真っ赤になっているのを見た記憶がある。



小さなアルバムを掲げて語る小川名誉会長 (写真：井出)

終戦とその後の様子

工場が焼けたので、友人の中には学校には来なかった人もいたが、私は学校で、爆撃を受けた建物の片付けなどをした。終戦の8月15日は、校庭に集まって、終戦の玉音放送を聞き、跡見桃子校長が「戦争は終わりました。安心なさい。」と言われた。

終戦でガラッと世の中が変わったと感じた。情報の質が変わり、「平和ってこれか!」と実感し、「よかった!」と思った。その後、1年半くらい女学校に通った。

1947年、女学校以降の進む道に悩んだ。好きだった絵の道も考えたが、日本画の先生から、「絵では自立するのが難しい、つぶしの利く進路を選びなさい。」と助言され、日本女子大の生活芸術学科という新しく創設された学科に入ることにした。広く女子に開かれた大学で、新しい時代が変わることを期待しながら歴史の変化を敏感に受け止めていた。

基礎意匠とともに教壇に立った

女子大を卒業してから、東工大の研究室や土浦事務所での実務を経て、大学に戻った。当時、通産省による、米国からデザイン教育の専門家を招いての講習会があり、私も参加した。それはバウハウスの流れを組むもので、基礎デザインの大学教育での講義実践に向けて、早大の先生方なども一緒に研究会を組み、新しい意匠の講座名が「基礎意匠」と命名され、教壇に立つ。点・線・面、1枚の紙から立体へと、学生が手を使って考えるトレーニング方法が、建築教育のベースだと今でも確信している。

At the time of World War II, I was a student at Atomi Girl's School and was mobilized as a student to work at the Lion Toothpaste Factory near Umay Bridge. When the bombing hit downtown on February 25, 1945, the factory was destroyed and I had to return home to Kita-Urawa. Walking out via Umay Bridge with a friend going home in the same direction, I witnessed the devastation of people floating in the Sumida River from the top of Umay Bridge, and turned away as I passed by. I was asked to stay at a friend's place in Akabane. The next day we crossed the railroad bridge over the Arakawa River on foot, and took a train returned to Kita-Urawa. In subsequent air raids such as the Tokyo Air Raid, I remember seeing Tokyo burn and turn red from Urawa.

Since my factory had burned down, I worked at school, cleaning up bombed-out buildings. On August 15, the day the war ended, we gathered in the schoolyard to listen to the announcement of the war's end. The war was over. I felt that the world had changed completely after the war. The quality of information changed, and I realized, "This is what peace is all about!" I thought, "Thank God!".

After graduating from a girls' school in 1947, my Japanese painting teacher advised me to enter a new career path, the Department of Life and Art at Japan Women's University, as a "more flexible career path".

After graduating from a women's college, I worked in the Tsuchiura Architectural Office. After attending a study group with a design education specialist from the U.S. who is descendant of Bauhaus, I had a course called Basic Design and am still convinced that should be trained to develop from a single point or line to a plane or three dimensions.

私と戦争と建築 — 船津貴子さんに聞く

薄井 温子

Me, the War and Architecture — Interview with Ms. Takako Funatsu

USUI Haruko

2023年10月28日、船津さんより、戦中・戦後の様子について、御船と薄井がインタビュー

終戦から8年経ってようやく日本に帰国

私は終戦直後の東京を知りません。満州から帰国したのが1953(昭28)年で、終戦から8年が経っていました。帰国後、石川県金沢市の県立新制高校3年によく編入できました。既に20歳を過ぎ、遅れを取り戻すため必死に勉強しました。

満州で終戦をむかえる

1945(昭20)年、私は満州の市立吉林高等女学校3年生でした。その10年前に、父は豊満ダムの水力発電所の工事で満州に来ていました。父から遅れること1年弱、母と弟と私も渡満した訳です。

当時は世界で2番目に大きいといわれたダムのある豊満に居住し、吉林高等女学校に通う傍ら、当時の社会・国際状況に相応した生活がありました。女学校3年の8月15日ラジオで終戦を知り、すぐに豊満の自宅に帰り、学校には行けなくなりました。

1947(昭22)年の夏に豊満発電所関係者の帰国が始まりましたが、父を始め20数人の技術者とその家族は残される事になりました。

私の初仕事

中国内戦がようやく終息した後の豊満には、中国全土から若手技術者が参集してきました。彼らのために発電所の技術資料をまとめる手伝いをしないかと、父に言われたことが私の初仕事でした。私が図面をトレースし、日本に留学経験のある人が中国語に直しました。この後、ハルビンから早稲田大学出身の建築士が来て、私が助手を勤め図面等を学びました。当時は日本への帰国の望みが持てず、万が一に備え、本格的な建築の仕事を得るため、長春の全寮制の建築工程学校に入りました。全校約1000人の学生のうち、私はただ一人の日本人でした。間もなく日本への帰国が決まり、同校を退学し在学証書をもらい、家族と共に帰国し、父母の出身地の金沢に居住しました。

この在学証書のおかげで編入できた新制高校では、基礎学力の遅れ、特に英語の猛勉強をし、翌年には法政大学の建築専攻に入学する事ができました。入学したところ女性は一人でした。丁度父が東京に就職したので、家族で移り住みました。大学を卒業後、住宅公団に入り、集合住宅や生活関連施設等の設計に携わって来ました。

UIFA でも英語を猛勉強

UIFA・JAPONで世界大会に参加して知り合った海外の会員と、今でも付き合いが続いていますが、その方々と話していると、学校で勉強できなかったブランクが大きいと感じ



船津さんインタビューの様子(写真:御船)

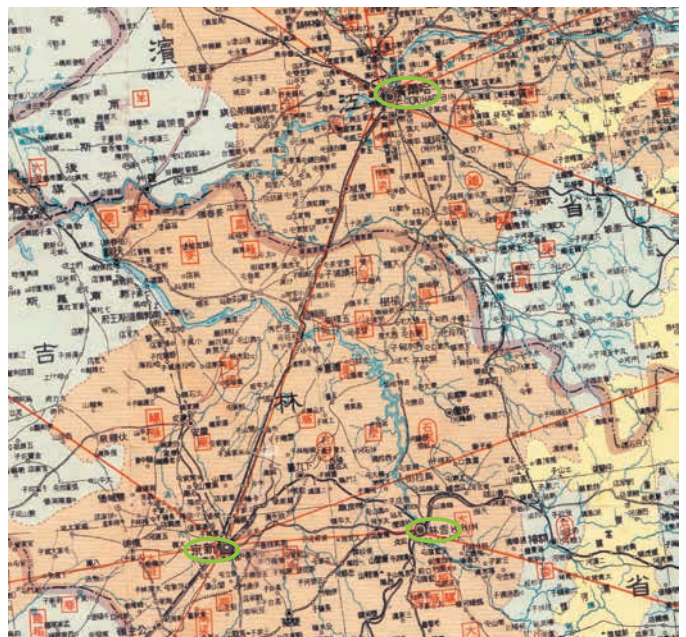
ました。そこで、中原暢子さん、峯成子さん、田中美恵子さん達と英会話を習い、私は8年の遅れを取り戻す様努力しました、一向に上達しませんでした。

I returned from Manchuria to Japan in 1953, eight years after the Second World War. I could transfer to the third year of high school in Kanazawa City. Already past the age of 20, I studied hard to catch up.

In 1945, I was a student at a high school in Manchuria. Ten years earlier, my father had taken us when he went to build the hydroelectric power station there. I lived in Homan, which had a dam that was the second largest in the world at the time. On 15 August of my third year at the girls' school, I heard about the end of the war on the radio. In 1947, people began to repatriate to Japan, but my father and 20 other engineers and their families were left behind.

Father asked me to put together technical documents of the power station, and this was my first job. Also, an architect from Harbin had come, and I learnt the drawings. Then I entered an architecture college in Changchun. Soon after, I returned to Japan and went back to live in Kanazawa. At the new high school, I was behind in basic academic skills and studied hard, especially English. The following year, I was able to enrol in the Architecture Department of Hosei University. Just as my father got a job in Tokyo, we moved. After graduating from university, I joined the Housing Corporation.

I still keep in touch with some of the overseas members I met at the UIFA JAPON World Congress, but talking to them, I felt there was a big blank in my life because I could not study at school. So I took up English conversation lessons, and I have been trying to make up for the eight years of delay.



満州経済地図(昭和13年8月、満州事情案内所発行、出典 紙久図や京極堂 古地図CD)より部分拡大。上寄りにハル濱(ハルビン)、左下に新京(長春)、その右側に吉林があり(三カ所の○)、吉林の下近傍の川の上流に豊満発電所のダム湖がある。

吉田 あこの自然災害体験記
My Experience of Natural Disasters

吉田 あこ
YOSHIDA Ako

その時友人は恐怖で犬となり四つ這いに！！

その時閉じ込められて恐怖で尾てい骨が股関節に食い込まれ体は四つ這いとなった。犬の恐怖の姿に固定された。災害が沈下後、犬状態のまま、いろいろな医者についたが回復見込みなし。ところが、軍医だった方が、これは戦場でいくらか見かけた。恐怖のあまりいぬと同じにしっぽをまくのだ。直すには力がある。若い整形外科医を集めなさい。私の指導で治しましょう。と言われた。見事に治り、人間らしくなった。とは、世にも恐ろしい体験談。

その時私は怪力鬼となった！！

私の実家は阪神間大阪。ここは巨大台風の有名な北進路。私が3歳の時、有名な室戸台風。成人してからはジェーン台風。台風の日がまさに頭上を通過した。静寂なので屋外に出て近くの武庫川を見に行く。堤防に上がると川は逆流して三角波が、巨大な波が、海から上ってくる。高潮だ。折からの満潮期。慌てて自宅へ。しかし、隣家はすでに浸水が、自宅は、座敷に上がると既に濁流玄関扉をこじあげ攻め込んできている。

私は、座敷に上がると畳30枚をはがして、2階に押し上げる。この間15分、その時、浸水の上面が床下数センチで、はたと止まった。奇跡的に床上浸水は免れたのだ。気が遠くなった。それにしても、火事場のバカ力！！戻すのに1月分かった。いまでは笑い話となっている。

災害は二重災害が本当の姿！

木構造の先生から、構造基準では大雪の日に大地震はないと考えている、と教わった！

しかし、巨大な災害はすべて二重災害の様相をしている。関東大震災は地震発生後、避難した人々を襲った大火事である。福井地震も大火事と地震である。地震後火を出さないように厳重注意がされたが、阪神淡路は地震後、無人の靴工場から出火し、4000人ももの死者が出た。また、東北の津波災害も、太平洋がわからと沿岸地震との二重災害である。二重災害について可能な限り資料を分析して、科学的に展開したこの

たびの中林一樹氏のUIFA JAPONのご講演は実に見事である。そして、これを総会講演としたUIFA JAPONも卓見である。

執筆者の吉田あこさんが2023年11月13日にご逝去(享年91才)されました。この原稿は、お亡くなりになる5日前の11/8に受領し、11/10に内容の確認をした原稿です。引き続きいくつかの不明点についての問い合わせは、残念ながらこに、いただけないままになってしまいました。心よりご冥福をお祈りいたします。

UIFA JAPON (国際女性建築家会連 日本支部) 2023年度総会記念講演会

複合災害時代に備える
災害につよい家とは“どんないえ”
講師：中林 一樹 氏

開催日
2023年6月17日(土)
15:00~16:45

ZoomによるWEBセミナー
参加費：UIFA JAPON 会員・学生 無料
一般 1,000円
一般の方にはお申込み後、参加費を先にお申込みアドレスにご案内します。

参加方法：下記URL、QRコードにアクセスし、お申込みを完了の上お申込みアドレスから、参加申込メールが送られてきます。お申し込みは、お申し込みアドレスへお申し込みください。
URL: <https://forms.gle/UG00kky0576ADH9>
参加費は、お申し込みの金額です。
*イベント開催日にお申込みアドレスに入会費URLを返信いたします。
*詳細は要領参照

申込QRコード

【主催】UIFA JAPON (国際女性建築家会連 日本支部)
HP: <http://uifa-japan.com/> E-mail: uifa@uifa.jp

2023年6月17日 UIFA JAPON
総会基調講演案内

My friend was so terrified that he crawled on all fours like a dog!

When he was trapped in a leaning building, my friend's tailbone sunk into his hip joints with fear, and his body was frozen on all fours like a dog. He visited various doctors, but there was no hope of recovery. A doctor with military experience told him that he had seen many cases of this on the battlefield. It would require a lot of work to fix it. He gathered young plastic surgeons to mend it. And it healed beautifully.

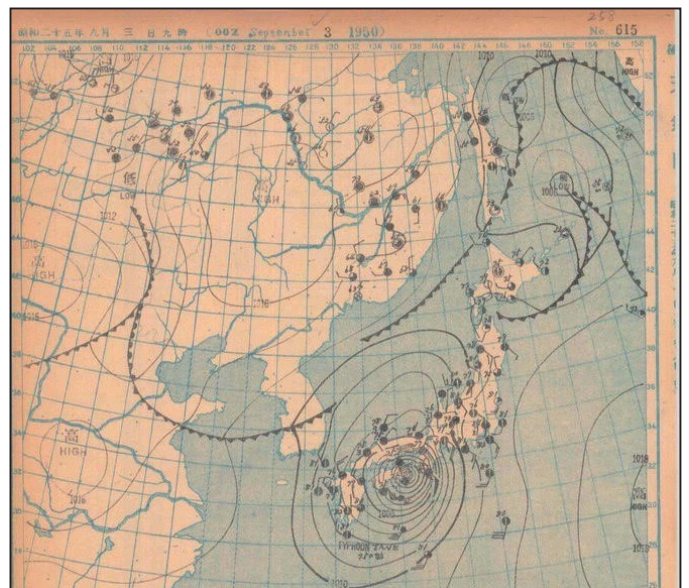
I became a monstrous demon at that time!

My parents' home is in Osaka, on the route of northbound typhoons. When I was 3 years old, the infamous Muroto typhoon came through. When I was an adult, Typhoon Jane came. In the eye of the typhoon, it was quiet, so I went up the banks of the nearby Muko River, which was backed up by the storm surge and came in from the sea. My neighbor's house was already flooded and it was approaching the front door of my house.

I went to the tatami room, peeled off 30 tatami mats, and pushed them upstairs. During this 15-minute period, the floodwaters stopped just a few centimeters below the floor. The stupidity of the fireplace! It took us a month to get it working again.

Double disaster is the true form of disaster!

I learned from a wooden structure teacher that structural standards don't consider the possibility of a major earthquake on a day of heavy snowfall! However, all huge disasters have the aspect of a double disaster. Kazuki Nakabayashi's lecture at UIFA JAPON was a brilliant scientific presentation.



ジェーン台風 (1950年9/3~9/4) の天気図 (9月3日9:00)
降水量は全般的に少なかったが、台風中心地域では暴風の吹き寄せで大阪湾や北陸沿岸で高潮が発生。大阪湾では満潮時より2.1m以上高くなり、多くの家屋が浸水した。床上浸水 93,116 棟、床下浸水 308,960 棟 (消防白書より)

木密地域 100 年の長屋のまちから—それでも住み続けたい

中島 明子

From a Town of Century-old Row Houses in a High-density Wooden Housing Area

—People Still Want to Continue Living There

NAKAJIMA Akiko

奇跡のまち京島

今年の9月1日前後の「関東大震災から100年」を記念したTV番組や新聞記事には、必ずといってよいほど、東京の墨田区京島が登場した。東京でも有数の木造密集地域であり、一部の地域は関東大震災でも倒れず燃えずに残り、東京大空襲でも焼け残った“奇跡のまち”でもある。

私は京島の中でも戦前長屋が多く、高齢化率が最も高い、3丁目のキラキラ橋商店街に築100年の長屋を借りて、NPO すみださわやかネットの〈キラキラ茶家〉を運営している。

キラキラ茶家の運営

以前から借りていた店を出て、2016年に家主の元八百屋さんから破格の家賃で店を借り、〈キラキラ茶家〉をオープンした。耐震改修を強化し、トイレや相談室を新たに設け、オレンジ色のキッチンも付けた。月1回〈街かど食堂〉を他のNPOとの連携で行っている。囲碁の会、墨田区社協の〈地域福祉プラットフォーム〉、千葉大学のキッズクラブ、子ども英会話教室や麻雀の会等が活用している。

私たちNPOは、東京土建墨田支部*の支援によることもあり、本来ハード面での壊れない・燃えない住まい・まちづくりを期待されているものの、基盤となるまちの多様な人々との交流が忙しい。私の担当は囲碁の日の店番や、「絵本展」(平和の絵本展、住まいとまちの絵本展、クリスマス絵本展)で、商店街の行事にも参加する。

京島三丁目の新たな胎動

しかし、このままでは、大規模災害が発生した時、豊かなコミュニティによる支援は得られても、建物の崩壊に対処できない。こうした時、若者を中心に「京島長屋」を再生する動きが活発になってきた。戦前長屋をセルフヘルプでリノベし、カフェやオフィスにしている。商店街が最も賑わった昭和30年代来の店主が、高齢となり店じまいをする時期に重なる。

それまでの防災対策では、戦前木造長屋は、国も東京都も墨田区も除却対象の何のものでもない。しかしRC造の閉鎖的共同住宅に建て替える防災対策に対し、人々が緩やかにつながる木造長屋の空間の心地よさを活かしたもう一つの防災対策が動き出したのである。私たちNPOも、コロナ禍を経て、安心して住み続けられる住まい・まちづくりを再開する。但し、現在の最大の課題は、隅田川と荒川に挟まれた地域としての水害対策だ。

Kyojima, Sumida-ku, Tokyo, is one of the most densely built-up wooden neighborhoods in Japan, and is also a "miracle town" that survived the Great Kanto Earthquake and the Tokyo Air Raid. We rent a row house in the Kira Kira Tachibana shopping street, where many prewar row houses are located and the aging population is the highest, and I run the Kira Kira Chaya of the NPO Sumida Sawayaka Net.

We rented the store from the landlord for an unbeatable rent and opened "Chaya." It was reinforced to be earthquake resistant, and a counseling room and kitchen were added. Machikado Dining is held monthly, and there are meetings of the Go-game club, the Community Welfare Platform, and Chiba University's Kids Club, among others.

We are expected to create a non-destructible, non-flammable home and community, but we are busy interacting with the various people of the community. We hold some picture-book exhibitions as well as events for the shopping street.

However, if this situation continues, when a major disaster occurs, we will not be able to cope with the collapse of buildings, even if we can get support from the community. At this time, a movement to revitalize Kyojima row houses is gaining momentum, led by young people. They are renovating prewar row houses and turning them into cafes and offices.

The Tokyo Metropolitan Government and Sumida Ward's disaster prevention measures have targeted prewar row houses for removal. However, rather than rebuilding them into RC housing complexes, we want to take advantage of the comfort of the wooden row housing, where people can connect with each other in a relaxed atmosphere. We will resume the creation of a safe and comfortable home and community after the Covid disaster. Now our biggest issue is to prevent flood damage as an area sandwiched between two rivers.

写真左：京島3丁目の長屋と路地

写真右：NPO すみださわやかネット運営の〈キラキラ茶家〉

右端の窓に絵が飾られた！(大正12年、大震災前の建築)

*注) 東京土建墨田支部は、主に町場の建設業組合である東京土建組合の支部



UIFA JAPON 事務局

〒102-0083

東京都千代田区麹町 2-5-4

第2 押田ビル (株)生活構造研究所内

Phone: 03-5275-7861 Fax: 03-5275-7866

E-mail: uifa@liql.co.jp

URL: http://uifa-japon.com

発行 2023年12月25日

THE SECRETARIAT OF UIFA JAPON

c/o LABORATORY FOR INNOVATORS
OF QUANTITY OF LIFE
DAINI-OSHIDA BLDG.
2-5-4, KOUJIMACHI, CHIYODA-KU
TOKYO, JAPAN 〒102-0083

PHONE :+81-3-5275-7861

FAX :+81-3-5275-7866

URL :http://uifa-japon.com

第11回首都防災ウィーク展示と防災カフェ報告

板東 みさ子

The 11th Metropolitan Disaster Prevention Week
Exhibition and Bosai Café Report BANDO Misako

災害を忘れず、繰り返し反省を込め、気を引き締めよう。関東大震災から100年目の2023年8～9月、第11回首都防災ウィークは目白押しのプログラム企画で、多くの人々の手によって行われた。

UIFA JAPONとしては、みらくルTV(9月2日)で、今年発行した冊子「自然災害に備えて 住まいづくりの勘どころ」を挿絵中心に内容紹介を行い、その前後で、横網町公園の東京都慰霊堂内に冊子内容をパネル化して展示。9月10日には、公園内のテントの下、「防災カフェ」を開催した。カフェ参加者にはこの冊子を説明しつつ、差し上げた。

コロナが5類に移行し対面での活動が活発になり、慰霊堂内の講演会場の外の数々のテントにも来場者が多く立ち寄っていた。大船渡からの秋刀魚炭火焼き無料提供には引換券受取のための行列が一時できていた。

例年にない猛暑の今夏は、9月になっても相変わらずで、かろうじてテントが作ってくれる陽陰の下で、早朝から、各々の役割に従って設営準備。客席や温かい抹茶を点てる場所・冷たい抹茶(水点て)を点てる場所・茶碗やお菓子の準備の場所等々。汗だくの屋外テントでは、やはり冷たい氷水で点てる抹茶は、50名余りのお客様のうち、多くが所望された。もちろん、本来の温かいお抹茶を望まれる方も。

夕刻の撤収作業もメンバー全員で、速やかに行われた。



東京都慰霊堂内での勘どころ冊子内容パネル(右端パネル)前にて(写真:井出)



メンバーのうち3人は和服で参加!テントの外で炎天下お客様を招き入れる担当や、離れた場所までお茶碗洗いに行く担当も休まず頑張る(写真:井出)

首都防災ウィークとは

UIFA JAPON 記念講演でもお話し頂いた、中林一樹氏が代表を務められる実行委員会が主催し、UIFA JAPON も共催し、2013年より毎年、関東大震災の起きた9月1日前後の週に、東京都慰霊堂で開催される。みらくルTV等でも発信し防災を呼びかけている。今年、「自然災害に備えて 住まいづくりの勘どころ」の冊子を紹介したみらくルTVの内容は右のQRコードで見ることができる。



みらくルTV



カフェメンバーに中村一樹実行委員長から感謝状が授与された(写真:岩井)

■役員会報告

2023年第3回 2023年9月8日オンライン会議

オンライン講演会開催準備 首都防災ウィーク準備
冊子「～勘どころ」配送状況報告 中日新聞記事掲載
報告 ホームページリニューアル報告 IAWA・1×1
プロジェクト NI125号発刊報告 NL126号企画報告

2023年第4回 2023年11月15日オンライン会議

オンライン講演会開催準備 首都防災ウィーク・防災
カフェ報告 伝承館写真展報告 毛呂山見学会準備 法
未改修計画について ホームページリニューアル報告
IAWA・1×1プロジェクト募集要領 NL126号進捗報告

編集委員からひとこと

毛呂山の家見学で、若い頃の中原先生を想う(薄井)／5類移行、振り返ることが多く、大切な沢山のことが蘇ります(井出)／衣替えしたのに、なかなかセーター着られない12月(杉原)／災害とは人が意に反して害を被ることと改めて感じた(宮本・編集長)／11月27日(月)に、源流研究会等の有志で、故中原暢子初代会長が設計された「毛呂山の家(木村別邸)」を見学させていただきました。現在の所有者は建物の価値に魅力を感じて購入されたとのことで、建物の幸せを感じた経験でした。(編集子)